

【情報の対象】 学=学部生・大学院生 教=現職教員 市=一般市民

支援事業

平成27年度
課外プロジェクトが
決定 学

学生生活の一層の充実を図ることを目的に、大学院生、学部生が自主的に企画した取り組みに対し活動資金を支援する「課外プロジェクト」事業。今年度は7件の応募があり、下記5件に決まりました。各プロジェクトの内容に応じて20万円を上限に、物品等の購入、旅費、謝礼等に係る費用を援助します。なお、平成28(2016)年度の募集は来年4月に告知予定です。

【今年度採択の課外プロジェクト】※敬称略

HICプロジェクト

金井宏樹(学校教育学部学校教育系コース2年)

日本人学生と留学生、さらに留学生の親代わりのフレンドシップファミリーが交流を図り、異文化理解を深めるためのさまざまなイベントを開催する。

カンボジアの子どもたちとの交流を通して
世界を知ろう

—Second season—

牧山達雄(大学院修士課程行動開発系教育コース2年)

神戸市内の小学生を対象に、国際理解協力教育の出前授業を実施。カンボジア笑縁団体「Momojiro」の協力の下、日本とカンボジアの生活や教育環境の違いについて考えさせる。

兵教びかびか大作戦! 2015

柳井崇史(大学院専門職学位課程学校経営コース2年)

学校経営コース生34人が月1~2回、キャンパス内で美化活動を展開。学部生・大学院生にも参加を呼び掛け、現職教員学生がさまざまな相談に乗るなど学生間の交流の場とする。

おもしろく、ないならいっそ、おもしろく(仮)

菊地康介(大学院修士課程教育コミュニケーションコース1年)

「兵教大をどこまで面白くできるか」をテーマに、夕暮れ映画祭、フリーコーヒーなど多彩なイベントを学生や他大学の人も巻き込みながら開催する。

日本固有の生態系を守る

小川雄太(大学院専門職学位課程授業実践開発コース1年)

「日本固有の生態系を守る」をテーマに、加東市や近隣地域にある池沼の「今」の姿を明らかにし、地域への啓発活動を行う。

7月～9月の主な出来事

シンポジウム

「子育て・親育ちを促す支援の役割
～子育て支援活動の中での記録から～」

7月18日 神戸ハーバーランドキャンパス

文部科学省の特別経費を受けた「大学の機能強化としての就学前教育専門職(仮称)養成の高度化と幼小連携を含めた総合的カリキュラム開発」の取り組みの一環として、子育て支援を中心とした地域社会連携における大学の役割について考えることを目的に開催。同事業の実施組織である就学前教育カリキュラム研究開発室長の名須川知子教授が企画趣旨を説明した後、同開発室の磯野久美子特命助教が提案発表を行いました。続いて、神戸常盤大学の上月素子教授と神戸大学大学院の伊藤篤教授からそれぞれ講義があり、最後に名須川教授による総括が行われました。当日は、大学教員、幼稚園教員、保育士など約50人が参加し、熱心に耳を傾けました。



特別支援教育モデル研究開発室
「Café LiaisonVI」

7月30日 附属図書館ライブラリーホール

対話を通して特別支援教育への理解を深めるイベント「Café Liaison」の6回目。「漢字テスト、あなたはどの採点しますか?—通常学級の特別支援教育と教科の内容を考える—」と題し、奈良学園大学の西辻正副副学長(前文部科学省主任視学官(国語担当))と特別支援教育コーディネーターの樋口一宗教授が対談。樋口教授は、発達障害のある子どもが書く漢字の特徴について解説し、西辻副学長は「字形」には多様性が認められており、指導場面や状況を踏まえつつ柔軟かつ寛容に評価することが重要であると話されました。本学の学部生、大学院生、教職員など約60人が参加し、「漢字に対する考え方が変わった。漢字を通じて教育の課題・問題点が見えた」等の感想が寄せられ、満足度の高い講演会となりました。



※「うれしの」とは、加東キャンパスや附属学校などが集まる丘陵地「嬉野台」にちなみます

催し

教材文化資料館 平成27年度後期展 フォーカス!「道徳」学教市

道徳の時間が、小学校は平成30年度、中学校は31年度から「特別の教科 道徳(道徳科)」として教科化されます。後期展では、教科化に至る過程や道徳教育の歴史の変遷、文部科学省配布の教材「私たちの道徳」の内容、授業実践の在り方などを紹介。今後の道徳について語り合える企画となっています。

→「私たちの道徳」小学校1・2年、3・4年、5・6年、中学校 文部科学省 平成26年(4冊)
「兵庫県道徳副読本」小学校1・2年、3・4年、5・6年、中学校 兵庫県教育委員会 平成27年(4冊)



←道徳教材パペット人形
左/「ティラノサウルス ティラポン」ホブラ社 平成18年
右/「アンキロサウルス ウマンウ」ホブラ社 平成19年

- ◎開催期間/平成28年2月29日(日)まで
- ◎場所/教材文化資料館(附属図書館内)
- ◎開館時間/平日8:30～22:00、土曜・日曜・祝休日10:00～17:00
- ◎休館日/11月21日(土)、12月28日(日)～1月3日(日)、16日(土)、17日(日)、26日(日)、2月25日(日)、26日(日)
- ☎ 教材文化資料館 ☎ 0795-44-2362

募集

Seminaire Liaison VIII iPadを活用して 発達障害のある生徒の 学習意欲を高める! —中学校社会・英語科での クラス、グループ、個別学習—学教市

発達障害のある生徒への学習支援として、iPadなどのICT機器を活用することが注目されています。今回の公開講座では、クラスの授業場面などでiPadのアプリや自作の電子教科書を使用させると対象生徒のアクティブラーニングを促すこと、困った問題の低減につながることを具体的な事例を交えて紹介します。参加無料。

- ◎講師/坂田俊広さん(岐阜県多治見市立陶都中学校主幹教諭)
- ◎日時/11月7日(土)15:00～17:00
- ◎場所/神戸ハーバーランドキャンパス・兵教ホール
- ◎対象/特別支援教育に関心がある人、教育委員会・教育センターの指導主事、特別支援学校教員、小中高校の教員など
- ◎定員/80人
- ◎申し込み方法/
確定し次第、特別支援教育モデル研究開発室ホームページ
<http://www.hyogo-u.ac.jp/ssep/>で発表

第35回教育実践学フォーラム 「スマホ時代のリスクとスキル」

8月29日 大阪大学中之島センター

連合学校教育学研究科における情報発信や地域貢献を目的として毎年開催しているもので、今年度のメインテーマは「高度情報化社会の子どもたち」。ゲストスピーカーの兵庫県立大学環境人間学部の竹内和雄准教授は、LINEやネットでのトラブルや大規模調査の結果などを紹介し、「ケータイネイティブ」世代である小学生においてスマートフォンの問題がこれまで以上に懸念されると警告。その根本は心の問題であり、周囲の大人との相談できる関係の構築が重要であること、規則や管理などの他律的対策から子ども間での自律的対策にシフトすることの必要性などが強調されました。



第4回発達障がい支援 アドバンスド講座学教市

特別支援教育をリードする人材の育成を目指した研修講座です。午前中は「特別支援教育の今とこれから」(仮)と題した基調講演や前・現文部科学省特別支援教育調査官(発達障害)らによる鼎談、午後は通常学級をテーマにしたミニレクチャー、「特別支援教育の地域リーダーを求めて」をテーマにしたシンポジウムを開催します。参加無料。

- ◎日時/平成28年1月23日(土) 10:00～17:00
- ◎場所/神戸市産業振興センター3階・ハーバーホール
- ◎対象/特別支援教育に関心がある人、教育委員会・教育センターの指導主事、特別支援学校教員、小中高校の教員など
- ◎定員/350人
- ◎申し込み方法/
確定し次第、特別支援教育モデル研究開発室ホームページ
<http://www.hyogo-u.ac.jp/ssep/>で発表

☎ 特別支援教育モデル研究開発室
☎ 0795-44-2510 ☎ 0795-44-2511